

## 令和6年度 第2回白馬高等学校学校運営協議会 議事録(概要)

1 日 時 令和6年(2024年)7月24日(水) 15時00分～17時00分

2 場 所 白馬高校会議室

3 出席者 委員 14名 以下敬称略

- ・相沢さつき(同窓会副会長)
- ・武田彰代(大町市立美麻小中学校講師 元白馬村教育委員長)
- ・太田伸子(白馬村議会議長)
- ・柴田友造(小谷村議会副議長)
- ・草本朋子(白馬インターナショナルスクール理事長)
- ・笹川陽子(白馬高等学校PTA、スキー部後援会役員)
- ・松澤忠明(PTA会長) ※新
- ・白戸 洋(松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科教授)
- ・小林かおる(小谷村立小谷中学校長)
- ・丸山俊郎(白馬村長)
- ・松澤 泉(白馬山麓事務組合事務局長)
- ・小林雄一(白馬高等学校長)

### 欠席委員

- ・中村和彦(白馬村立白馬中学校長)
- ・中村義明(小谷村長)

### その他の出席者

- ・井出敦(高校教育課高校再編推進室主幹指導主事)
- ・土橋邦彦(高校教育課高校再編推進室主任指導主事)
- ・白馬村副村長、白馬村・小谷村教育課長
- ・白馬山麓事務組合白馬高校支援係局長補佐、主査、白馬高校魅力化コーディネーター
- ・白馬高等学校教頭、事務長

## 4 次 第

(1) 開会の言葉(藤森要白馬高校教頭)

(2) 長野県教育委員会挨拶(井出敦高校教育課高校再編推進室主幹指導主事)

- 今年度の国際観光科の入学生徒は41名。県外からも多くの入学生を迎え入れることができた。生徒募集の活動を行うために遠方まで足を運んでくれる学校関係者、ここにいる皆様、地域の皆様など多くの方が熱心に取り組んだ結果だと理解している。
- 5月の早い段階からオンライン説明会、東京、関西方面の生徒募集活動が始まっていると聞いている。今後も白馬高校の魅力をますます発信してもらい、国際観光科だけでなく、普通科を含め、県内外問わず、多くの生徒が白馬の地での学びを求めて入学してくれるよう、白馬村、小谷村、学校とともに県教育委員会も一緒に進めていきたいと思う。
- 今回の運営協議会では生徒との意見交換の場も予定されている。生徒の考えを聞かせてもらい、活動に反映していくことは、とても有意義なものだと考えている。白馬高校の今後の発展のために、活発な議論を交わされることを期待している。

(3) 学校長挨拶(小林雄一白馬高校学校長)

- 4月の第1回運営協議会以降、さまざまな教育活動を行ってきた。特に、7月の第1週には生徒会の大きな行事である文化祭が行われた。当日は天候にも恵まれ、土日の一般公開には703名という大勢の方が来校。地元の方々、また、小中学生を含む地域の子どもたちにも、本校生徒に

よるステージ発表やコンサート、各部活動の発表など、日頃の学習や練習成果とともに、本校生徒が生き生きと活動する姿を見てもらえたのではないかと思います。当日は、PTAや地域の方がキッチンカーなども準備。他にもさまざまな面で協力、支援をいただき、賑やかな充実した行事となった。

- 全クラス三者懇談会が始まり、これを経て3年生はいよいよ進路実現に向け、具体的に動きだす。
- 27日（土）には体験入学が行われる。
- 今後も、本校の特徴的な取り組みや部活動の様子、生徒の生き生きとした姿をより多くの方に伝えていきたいと思う。
- 今回は学校からの報告に加え、白馬高校に通う生徒たちの生の声を直接聞いてもらいたいと考え、意見交換の機会を設けた。5名の生徒が意見交換に参加予定。

#### (4) 報告事項

##### <白戸会長>

- 生徒との交流も含め、今回も意義のある会議にしていきたいと思う。

##### ◇学校からの報告事項

##### <小林校長>

- 今年度行った新入生アンケート結果と、それを受けて本校が行っている特徴的な取り組みについて報告をしたい。
- アンケートについては、主に「国際観光科の新入生が本校に入学した理由」と、「普通科・国際観光科それぞれの生徒が本校でやりたいと思っていること」の2項目に絞り、分析した結果を報告する。
- 国際観光科の新入生が入学した理由としては、まず英語への興味関心があげられる。続いて、スキーをやりたいという希望。今回の回答で多かったのが、自然に恵まれた観光資源豊かな白馬で学びを広げたい、という期待である。
- 普通科・国際観光科のそれぞれの生徒が思う「本校でやりたいこと」については、自然環境に恵まれた白馬高校でしかできない授業、山岳、ウィンタースポーツなどの特徴的な学びを望む声が多い結果になった。
- この結果を受け、学校では「自然」、「観光」、「英語」という3つの柱を掲げ、地域と連携した学びを進めている。これを実現させる方策として、多くの学校独自の科目を開講し、それぞれの授業において、実際に「触れる、体験する」ことを大切にした、フィールドワークを重視している。
- 代表的なものとして、1年全員が履修している「北アルプス学」。1年間かけて白馬の自然、環境、歴史、文化等を、体験活動を通して探究的に学ぶことにより、2年次以降につながる土台を作っている。
- 2年では、観光におけるホスピタリティーマインドを実践的に学ぶ、「観光実務」という科目を設定している。高校生ホテルと題し、地元で観光に携わる方の協力のもと、宿泊客に対する接客をしていく中で観光実務を実践的に学んでいる。
- 2年の「観光英語」という科目では、外国人旅行者に対して英語によるガイドツアー等を企画し、生きた英語を実践的に学んでいる。
- 3年では、「環境」という科目を設けている。地元の中학생とコラボし、高校生が先生役を担い、それまでの学習を活かして水質調査や水生昆虫を調べたり、樹液からメープルシロップを作ったりとさまざまな体験を通じて、自然に触れ、環境について学ぶ機会を作っている。
- 3年の「時事問題」の科目は、地域の抱える課題を調査し、その課題に対し実際に行動することに重きを置いた内容となっている。
- 「観光まちづくり」という科目では、他の観光地の魅力を調査し、比較・検討を踏まえた上で、持続可能な観光まちづくりについて、実践的に学習している。
- 「アウトドアスポーツ」では、地元のありとあらゆるスポーツを体験し、山岳資源の活用またその魅力について学んでいる。
- 今年度も地域の特色を生かし、カリキュラムの中で本校独自の科目を開講している。今後も引き続き生徒の多様なニーズに応えられるような、特色ある教育活動の取り組みを進めていくつもり

である。

- 普通科、国際観光科のどちらの生徒も、これらの特徴的な設定科目をそれぞれの希望により選択できるように、教育課程や時間割の編成を進めていく。
- 授業以外でも、1年生の全員登山、全学年2日間のスキー・スノーボード教室、強歩大会などの山岳資源を活かした行事や、海外の語学研修や交流など、地元協力のもと、今年度も取り組んでいきたい。
- 部活動について。少人数のため部活動の種類は少ないが、全校の8割弱の生徒がいずれかの部活に所属し、日々熱心に練習に励んでいる。
- 地元の建設会社の方の協力を得ながら進めてきた断熱改修の取り組みも継続する予定。
- キャリア教育も丁寧に進めていきたい。
- 新入生の本校に対する期待に応えられるよう、今年度も学校運営協議会を核として、地元である白馬村、小谷村の方々の力をお借りしながら、教育活動の取り組みを進めていきたいと思う。
- P14、15の体験入学申し込み状況について。県外からの参加者数は昨年より10名ほど多い29名。
- P16、中間改修の現在の状況、DX加速化推進事業の取り組みについて。また、本校が行っている探究学習が、(一財)三菱みらい育成財団の教育プログラム支援活動の対象となり、助成を受けられることとなった。
- P17、18の、1学期の行事における生徒たちの活動の様子もご覧いただきたい。

#### ◇今年度の生徒募集活動について（白馬山麓事務組合）

##### <松澤局長>

- 地域みらい留学で行っているものは、オンラインによる合同説明会と対面説明会。オンライン説明会は3回、50名の視聴があった。単独でも3回実施。45名が視聴。昨年度は全体で7回行い、74名の視聴だったので、現在6割ほどが視聴している状況。
- 対面説明会については、今年度3回行った。6月29日、30日は東京で開催。2日間で56組の参加があった。7月は大阪で開催し、2日間で17組が参加。
- 独自開催の説明会については、5月26日に9組、7月15日には4組の参加があった。
- 5月には関西地区の中学校14校をまわり、6月小谷村の姉妹都市内の4校で募集活動、6月27日には白馬村の姉妹都市、7月には関東地区の中学校、現スキー部の子の出身校などを訪問した。
- 昨年度の対面説明会の参加者は全体で53組。今年度はすでに大幅に増えている状況である。
- 説明会の中での質問は、昨年は寮に関するものが一番多かったが、今年度は、「入試はどういったものか」など、学校の様子を聞く参加者が多く見られた。半分以上は受験をするのではないかという感じを受けた。
- 応募が多いことは嬉しいことであるが、同時に受け入れ態勢も今後は考えていく必要がある。

##### <白戸会長>

- 質問・ご意見などがあれば。

##### <丸山委員>

- 県外からの入学者が増えると寮の問題などもあるので、近隣の地域からの入学者を伸ばす、普通科にも力を入れる、なども視野に入れていくべきだろうと思う。

##### <小林委員>

- 体験入学に関して、地元である小谷中からの希望者が4名というのは、少ないという印象。時期としてすでに志望校を決めている生徒や、夏休みに他校を見に行く生徒などもおり、状況は厳しいと感じる。
- 直接生徒と対話しながら進路指導をしていく若い教員が、しっかりと地元のことを知らないといけないと思う。見学する、学校を知る、というところが足りていない気がする。中学校として早めに動く、子どもたちに地元の学校の様子を知ってもらい、ということを経験が必要なのではないかと思う。
- 地域によっては、全校生徒で地元の高校を見に行くというところもあるので、そうしたことも必要。

##### <小林校長>

- 白馬中、小谷中含め、地元の中学校との交流や情報交換も重要なことだと思う。今後の連携の方

法なども含め、検討をしていきたい。

<白戸会長>

○昨年度のワークショップの中で、中高一貫として考えてもいいのではないかと、という話も出ていたので、ぜひ交流を深めてほしい。

○対面説明会での質問が寮のことではなく、学校の教育内容等に対するものが多くなったのはなぜか。変わった要因は外的要因なのか、こちら側の取り組みの結果なのか。個人的な感覚でいいので。

<松澤委員>

○地域みらい留学というツールが重要だと思う。昨年の地域みらい留学参加者の半数が入学している状況。地域みらい留学という制度を通して白馬を知り、「英語をやりたい」、「ホテルマンになりたい」、「地域で活動したい」などの目的をしっかりと持って入学を希望する子が多い印象。

<白戸会長>

○高校生にとって、途中で高校が変わるという事に対するハードルが低くなっていると思う。特に、遠隔に対する慣れがとても大きいような気がする。子どもたちの、高校教育に対する考え方が大きく変わってきた、ということ的前提に、いろいろなことを考えなくてはならないと思う。

<小林校長>

○銀座 NAGANO で説明会に参加した保護者、子どもたちに話を聞くと、「親が白馬に観光に毎年来ていて」、「かつて来たことがあってとてもよい所だった」などの声が多かった。白馬自体の地域のブランド力というものに、本校も恩恵を受けていると感じた。

#### (5) 生徒との意見交換（生徒5名参加）

<白戸会長>

○委員の質問に対して、事前に生徒たちに回答してもらった資料を見ながら、追加の質問や提案があれば。

<丸山委員>

○スキーや英語のことが挙げられているが、学校の環境として、自分の期待していたものにどのくらいあっているのか。

<生徒A>

○もともとスキーをやっていて、スキーの練習を公欠扱いにしてもらえると聞いていた。実際そうになっているので、ありがたい。

<生徒B>

○先輩に話を聞いてみたら、設備も整っているし、県外を受けるより絶対にいいと聞いていた。実際に白馬高校に来てみて、他の高校の話を聞いていると「やっぱりここにきてよかったな」と思う。

<丸山委員>

○英語のレベルが高いという回答が見られるが、英語環境についてはどうか。

<生徒B>

○国際観光科と普通科の授業内容は同じではないので国際観光科については分からないが、英語の環境としてはA組もB組も差はないと思う。

<丸山委員>

○生徒Cさんはスキーについて書いてあるが。

<生徒C>

○練習も公欠扱いになると聞いていたが、去年はアルペン部のフリースタイル種目に顧問がついておらず、練習が公欠扱いにならなかったことがある。そこが少し疑問。

<丸山委員>

○生徒Dさんは英語のことに触れているが、どんな環境だと思うか。

<生徒D>

○出身地の静岡では、外国人を見かけることはあまりなかった。白馬にはたくさんの外国人がいて、アルバイト先のレジを通して英語を話せるのは、白馬の良さかなと思う。「きみ英語上手だね」と

言われることもある。

<丸山委員>

○白馬高校に足りないもの、もっとこうなったらいいのに、というところはあるか。

<生徒一同>

○特にはない。

<笹川委員>

○生徒Cさんへの質問。生徒募集活動に関して、「普通科と国際観光科の人数が同じくらいになるようにしてほしい」とあるが、人数がちがうことによるメリットやデメリットはどんなことがあると思うか。

<生徒C>

○例えばクラスマッチのとき。人数が少ないクラスだと出られる競技に限りがあり、人数合わせでA組は全試合出られるけど、B組（人数が多いクラス）は1、2試合しか出られない。応援する時間が長いと興味を失う人もいるから、そこがデメリットだと思う。

<武田委員>

○学校の中で魅力のある、一番わくわくする授業は何か。

<生徒A>

○アウトドアスポーツ。私たちの代からA組（普通科）の生徒も取れるようになり、釣りやロープワークなどが楽しい。

<生徒E>

○時事問題が一番楽しい。大系線のことをメインでやっているが、他にも自分が気になるトピックについて、1人10分くらいの授業をしてみる。先生がやる授業というよりも、みんなで授業をつくる、という感じがするので楽しい。

<生徒A>

○プレゼンテーションという英語の時間。英語でプレゼンをする機会は多くなかったので新鮮。

<生徒C>

○数学。5、6人しかいないクラスで、授業に飽きてしまい、問題が難しくて「もうやめよう」となったりするときにみんなで遊ぶのが楽しい。

<生徒D>

○数学。難しい問題を解けたときの達成感が好き。

<武田委員>

○美麻小中では対話を大切にされていて、先生がなるべく関わらず、生徒同士が話をして学習を進めていくことが多いが、話を聞いていると、白馬高校も同じ感じがしてすごくいいなと思った。自分の考えを自由に言える、プレゼンができるなど、白馬高校にくるとこんなことができるよ、というのをぜひ、近くの中学生、小学生に伝えてほしいと思う。

<白戸会長>

○もし小中学生に白馬高校の良さをアピールするとしたら、どんなことをするか。

<生徒B>

○中学生もスマホやインターネットを使っているので、インスタグラムなどのSNSとか。みんなの仲の良さが特徴だと思っているので、少人数だからみんな仲が良い、というところを発信すればいいと思う。

<生徒E>

○小・中学生との交流が少ないと思う。中学3年生を実際の授業に呼んで一緒に授業をすれば、少人数の良さや先生のサポートなどが伝わる。身をもって体験してもらったかどうかと思う。

<生徒A>

○SNSなどを活用し、生徒自身をもっと発信していけたらと思う。

<生徒C>

○地元の中学生だけでなく、大町など少し遠方の中学生とも交流できる場があるといいと思う。

<生徒D>

○高校は小難しいイメージがあるが、白馬高校は遊びを通して学んでいくというのが魅力だと思うので、それを発信していくといいと思う。

<白戸会長>

○普段の授業風景を公開するなど、実際の高校生の姿を見せるというのが、募集に関しては大切になってくると思う。

<小林委員>

○「自分はこの地で生活していきたいと思う」という項目で「はい」と回答している人への質問。今後、どんなことを白馬でしていきたいか。

<生徒B>

○将来の夢は臨床検査技師で、白馬でそれができると言われると就職は難しい。それでも、大北の中で就職が出来たら、白馬から通いたいと思う。

<生徒A>

○ぼくも医療系の仕事に就きたいと思っていて、どこに就職できるかは分からない。別のところに就職して、別のところに住んだとしても、頻繁にスキーをしに帰ってきたいと思っている。

<小林委員>

○先程大糸線の話が出ていたが、中学校でも、糸魚川から大糸線に実際に乗り、大糸線について考えていこうという取り組みを4月から始めた。新潟から大糸線に乗って帰ってくるときに、ちょうど新潟の小学5年生、6年生と一緒に、「ともに大糸線について考えていけるといいですね」という話になった。身近なところで、大糸線について考えている子どもたちが結構いる。つながりあって、発信できるといいのではないかなと思う。中学校にレクチャーしに来てほしい、と個人的には思った。

<松澤委員>

○高校生になって、親のありがたみなどを感じられるようになってきているのかを聞いてみたい。

<生徒B>

○入学したときに母との約束事として、「お弁当は自分でつくる」という約束をしたけれど、全く作れていない。母が1ヶ月くらい前にけがをして入院した際、料理も洗濯も何もできない状況になり、妹と分担して家事を毎日やったことで、母のありがたみを感じることができた。

<生徒E>

○中学2年生までダンスチームに所属。そのときは反抗期だった。一回ダンスを辞めて1年のブランクがあってから高校でダンス部に入部。そのときに親がとても喜んで、「いったん辞めたのにまたやり始めてくれたことが嬉しい」と言ってくれた。大会の応援もしてくれるので、親のありがたみは高校生になって感じている。

<生徒A>

○寮に住んでいて、親とは別々に暮らしている。洗濯を自分でするとき、「こんなに面倒くさいことを毎日やってくれていたんだな」とありがたみを感じている。

<生徒C>

○高校生になりいろいろな海外の大会にも挑戦するようになった。お金の面や人とのつながりなど、自分一人では絶対にできないことなので、親が気付かないところでいろいろと気をまわしてくれていたんだと思う。

<生徒D>

○兄の寮生活にあこがれて寮に入った。親がいないから自由だと思っていたが、実際は精神的にまわってしまい、心にぽっかり穴が空いた感じになり、虚しさや寂しさがあった。親がいないとだめなんだ、と改めて感じた。

<松澤委員>

○そういう言葉が聞けて、育ててよかったと親も嬉しく思っていると思う。チャンスをうまくつかんで、白馬エリア、大北地域で自分を見つめて生活、仕事を見つけてもらえればと思う。PTAも一生懸命応援するので、何かあれば言ってほしい。

<柴田委員>

○寮生活をしている人への質問。寮生活への不満はあるか。

<生徒A>

○思いつかない。

<柴田委員>

○では、良いところは。

<生徒A>

○毎日、朝昼晩とおいしい食事が出てくるし…100点満点かなと。

<生徒D>

○食事が本当に美味しいところがいいと思う。

<白戸会長> (質問や意見交換を促す)

<松澤委員>

○情報発信はしてもらっているのだろうか。後輩に向けて、「ここに来れば、面白いぞ」という部分をもっと出してもらえるといいと思う。学校の先生が言ってもなかなか通じないこともある。一番の先生は生徒たち自身。実際に生活している生徒たちが情報を発信してくれると、いいPRになると思う。ここにいる5人だけではありません、学校全体でやっていけるといいと期待している。再来年、その先につながっていくことだと思うので、ぜひ情報を出してほしい。

<太田委員>

○運営委員会のメンバーは白馬高校をもっと良くしたい、人数を増やしたいと思っている。現在、県外からは国際観光科に入学するのが前提となっているが、県内からは普通科、国際観光科どちらも希望することが出来る。しかし今年度は普通科の入学者数が少なかったのが残念。楽しいカリキュラムを普通科の生徒も選択できる、ということを知ってもらったため、どんどん発信してほしいと思う。普通科の生徒を増やしたいという声もあったので、国際観光科、普通科の両方が平均化できるといいなと思う。今現在は、普通科がA組、国際観光がB組となっているが、そうではなく、白馬高校の中のA組、B組のようなとらえ方で生活していけるような学校になることを望んでいる。

<生徒B>

○どちらのクラスでも同じ内容が学べるというのはいいと思う。私は英語が苦手だったのでA組を選んだが、私たちの代から授業の幅が増えてきて、プレゼンテーションスキルなどの新しい科目もできてきた。いつもA組だけでやっていた授業も、B組とごちゃ混ぜになり、そうするとB組の人たちの英語のレベルに驚いたりすることもあるので、もっとA組、B組がごちゃ混ぜになると、レベルもあがるのではないかなと思う。

<生徒E>

○生徒会のInstagramがあるので、そこで生徒会の行事だけでなく、授業風景なども積極的に発信していくといいと思う。生徒が運営しているものだから、生徒の声がもっと届くだろうと思う。もっと活用していきたい。

<生徒A>

○プレゼンテーションなどの授業で、A組、B組一緒にやったりするので、授業だけでなく休み時間なども一体化して、仲良くなれる。A組、B組一緒にのクラスというのも有効だと思う。

<生徒C>

○普通科は進学に有利で、国際科は英語に力を入れている、と言われた記憶がある。国際観光科だから英語というわけでもなく、2年生になったら自分で選択でき、私は数学を専攻した。国際観光科というと英語というイメージがあるが、いろいろな教科を選べるので、英語が苦手な人でも国際観光科に行けるし、普通科にも同じことが言える。中身がいろいろな人にくわしく知れ渡ればいいのではないかなと思う。

<生徒D>

○国際観光科と普通科とで区別されているのではないかと、中学生は思っているかもしれないが、2年生になれば英語も数学も選択できるし、そうしたことを多くの中学生に知ってもらうことが大切なのではないかなと思う。

<太田委員>

○大系タイムスなどのメディアを巻き込みながら、地域一帯となって、白馬高校のページを作ったり、ユーテレ白馬でチャンネルを設けたり、どんどん発信していくといいと思う。白馬高校のイメージを噂だけで捉えている人もいるので、もっと白馬高校の良さを多くの人に知ってもらいた

いと思う。メディア機関をうまく利用することも踏まえて考えてほしい。

<相沢委員>

○「アルバイトで外国人の方と話した」とか、「山でお客さんと交流した」などの、普通のことだけれど、そうしたことを発信していくといいのではないか。白馬高校がどんなことをしているかは以外に知られていない。白馬高校に多くの人に来てくれるよう、生徒にも協力してもらいたいと考えている。

<草本委員>

○質問に対する回答を見てみると、「ジム器具が古くなっている」など、ところどころに、こうあってほしい、というものが書いてある。学校の中で「これがあるともっといいな」というものはあるか。「ここがこうなるともっと自慢できるのに」というものを一つ挙げるとしたら何か。

<生徒B>

○照明が暗い気がする。内装のせいなのか、汚れなのか。暗いと思う。雰囲気ではなく、場所のせいなのか。中学校はとてもきれいなのに、高校に来たら、「あれ、暗い」と感じた。

<生徒E>

○スキー部以外の部活の紹介をもっと公にしてほしい。山岳部もダンス部もいろいろと頑張っているのだから。「ダンス部に入りたい」「この学校の吹奏楽部に入りたい」などしてもらえるのではないかなと思う。生徒数に対して部活数は多いと思うし、兼部もできるし。部活をもっと自慢できるものにしてほしいと思う。

<草本委員>

○確かにそうしたものは、親というよりもダイレクトに中学生に届くと思うので、そういうのを発信していくのは大事。

<生徒A>

○自然のことをもっと表に出していくといいと思う。自然の中で勉強したり、自然について勉強したり、そうした活動ができるので、もっと強調してもいいと思う。

<生徒C>

○施設や道具など、使えないものを新調してほしい。

<生徒D>

○白馬と言えばスキー部みたいなイメージがあって、「白馬にはスキー部しかないのではないかな」と思われるのが少し…。他の部活のことにも触れてほしい。

<丸山委員>

○昨年「トイレをきれいにしてほしい」という話題があがったが、どうなったか。

<生徒B>

○職員トイレはきれいになった。

<白戸会長> (他の意見を促す)

<松澤委員>

○白馬インターナショナルスクールと交流をもっと持つといいと思う。せっかくこんなに近くで勉強しているので、ぜひ一緒に勉強してほしい。

<草本委員>

○日本語が話せない生徒もいるので、彼らにとっても良い練習。ぜひ遊びに来てほしい。

<白戸会長>

○生徒たちが、「地域に必要とされている」「期待されている」ということを何となく感じていて、理解しているのは、他ではなかなかないこと。学校の先生を含め、とても大事に生徒に接しているのが伝わる。この高校を誇りに思っていることだと思う。

○高校2年生で、堅苦しい感じなく自然に自分の意見を言えるというのは、なかなか身に着けられない。普段の積み重ねだと思う。大学以降は「自分がどう思うか」、「解答は教科書や先生にあるのではなく、自分で見つけ、選んでいく」という学びになっていく。ここにいる彼らはその準備ができているように思う。これは日々の学校生活で培われているものだと思うので、自信をもってほしい。

(6) 意見交換

<白戸会長>

- 「生徒の声を直接聞いてほしい」という要望が小林校長からあり、本当にこうした機会があってよかったと思う。

<笹川委員>

- 中間修繕工事についての質問。被服書道室を改修してコワーキングスペースにすると書かれているが、コワーキングスペースとはどういうものなのか。

<小林校長>

- 基本的には、探究や連携などの取り組みが増えてきたので、協働的な学びができるようなスペースにしたいと思っている。将来的には、地域や小・中学生とコラボした学びなど、地元の探究の拠点みたいなものにしていきたい。
- 3年かけて、大きな規模で、管理棟の改修を進めていく。子どもたちの声を聞きながら、LED化も含めて進めていく予定。
- 国の政策で、DX加速化推進事業に採択されたので、デジタル機器の充実化も図りたい。

<笹川委員>

- 外部の人間が学校に入ることへの安全対策などもあると思うが、これだけ多様な人材が白馬に集まっているので、地域に開かれた学校という位置づけであってほしい。リモートで白馬に来ている大人が学校に足を運ぶきっかけにもなると思うし、子どもたちもそうした大人を目にして、つながりを持つことで、将来への見方が変わると思う。良い形で取り組んでほしい。

(7) 県教育委員より

<井出主幹指導主事>

- 2年前まで白馬高校で2年間教頭として、学校をどのような形にしていっていいのかを一緒に考えてきた。そこで学んだことも踏まえ、今後どういった協力ができるのか、ということを考えていきたい。
- 教頭として在籍していた頃の1年生が今の3年生。生徒会の子どもたちは、もともと光るものがあった子たちであり、なるべくしてなったと捉えている。しかし1年生のころはもちろん不安もあった。頼もしく成長したと思いながら、意見を聞いていた。校長はじめ、先生、地域の人に育ててもらっているのだな、というのが見てとれて感動した。
- 生徒たちの話の中で「遊びながら学ぶ」という言葉が印象に残った。白馬でしか体験できないことを通して学ぶことが、白馬高校の魅力。小学校から高校までで自分が体験してきたことは、外に出たとしても代えがたいもの。白馬で体験したことを通し、将来、何らかの形で白馬に戻ってきてくるのではないかなと期待している。白馬高校をますます活性化させるとともに、地域ともども活性化してくれることを願っている。地域と学校と教育委員会で協力したいと思う。

<白戸会長>

- 今年、大学を卒業した子が野球選手になったが、彼は中学も、高校も、大学も地元に通った。高校の指導者の中には、長野では冬期練習ができないから有望な子は東京に行かせるべきだと言う人もいたが、彼は地元で頑張り、先日東京ドームで大事な場面でピッチャーとして起用され、きちっと結果を出していた。それを見ると、やはり地元で育った強さというものがあるのだと思う。いろいろな選択肢があるけれど、やはり地元を選択したいと思えるような、魅力ある地元づくりが大切だし、そうした子を受け止める大人の姿勢も大事だと思う。

(8) 閉会の言葉

- 今後の協議会は、第3回を11月5日（火）、第4回を2月17日（月）に開催予定。

以上で、第2回学校運営協議会は終了。